

「前田智徳の背中」

統括生活相談員 原田 浩成

「よねやまの里だより」がお手元に届く頃には、プロ野球は日本一が決まり、深まる秋を感じておられるのではないかと思います。今シーズンは、広島東洋カープが十六年ぶりのAクラス入りを果たしました。そんな中、前田智徳という偉大な選手が二十四年間の現役生活にピリオドを打ちました。入団当初からその打撃センスは「天才」と称され、あのイチロー選手も尊敬しているというのは有名な話です。

また、現役生活は怪我に泣かされ続けてきました。また、何事にも妥協せず常に高い志を持ち、これを貫く姿勢から「孤高の人（高い志のために自分に厳しく一切に妥協なく向き合うさまを意味すると私は考えています）」と言われてきました。そのような印象が強い前田選手ですが、「個人の力がチームの力となる。そして、みんなで力を合わせることでチームは強くなる」という言葉を常々口にしていたということです。

この言葉には、チームメイトと共に努力し、成長できたことへの感謝の気持ちと広島への溢れる思いが込められているのではと思います。そして、前田選手の言葉は今の私への問いかけにも聞こえます。

私たち法人職員もチームで「基本的人権を守る」という理念を達成していくことが目的です。そのために、みんなで力を合わせることを意味します。「共に」を最も大切にしていくこととしました。決められたことを単に行なうのではなく、取り組みのすべてを全職員が

「共に考え、共に作り上げた」と実感できてこそ、働き甲斐や達成感が生まれるのではないのでしょうか。そしてすべての職員が主体的な意識を持ち、同じ認識が持ててこそ、法人理念の達成に近づくことができるのではないかと心より思います。

「共に」は取り組みの目的から過程、結果に至るまで全てを共有することです。そのためには、「報告」と「連絡」、それによる「相談」は欠かせません。このことは、お互いの考えを知り、気付きをもたらし、私たちの視野を広げてくれます。この繰り返しは物事の捉えかた、見かた、考えかたなどの視野をどんどん広げます。このことこそ、成長であるとの当法人の経営方針、人材育成の根幹です。

ですが私は「共に」ということを本当に理解できているのでしょうか。報告、連絡による相談が徹底できていたのでしょうか。既に、七ヶ月の時間が過ぎた今年度をあらためて振り返り、考えますと反省の言葉しか見つかりません。このような私ではあります。今一度「共に」ということの大切さを認識し、ご利用者、ご家族、地域の皆様の期待に応えられる法人職員に近づけるよう、管理者をはじめ、全職員と力を合わせるために、日常の「報告」「連絡」「相談」を欠かさず、その術を身に付けていく所存です。それは前田選手の遺した言葉の意味にほかなりません。「個人の力がチームの力となる。そして、みんなで力を合わせることでチームは強くなる」

苦情受付窓口



皆様からの『ご意見・ご要望・苦情・相談』を受け付けております。サービスをご利用いただく中で、何かお気づきの点がございましたらご遠慮なく各事業所までお申し出下さい。

皆様からの貴重なご意見が「今後のサービスの質の向上・維持」への重要な役割を担うものとして、ご利用者の皆様に十分理解していただけるよう迅速かつ適切な対応に努めてまいります。

特別養護老人ホーム よねやまの里

- TEL 025-536-4400
- FAX 025-536-4405
- 受付時間 9:00~18:00
- 責任者 吉澤 善明
- 担当者 相談員 原田 浩成
- その他 18:00以降も特別養護老人ホームよねやまの里で受け付けます。

新潟県国民健康保険 団体連合会介護保険課

- 介護サービス相談室専用TEL 025-285-3022

上越市役所高齢者支援課

- TEL 025-526-5111 (内線1158)

柿崎区総合事務所

- TEL 025-536-6704